やお・かしわら

おんぢじんじゃ
恩智神社

恩智神社は、「河内二之宮」でその創建は大和時代の雄略年間（470年頃）と伝えられ、河内の国を守護する為に祀られた神社で国内でも有数の古社であり、後に延喜式内名神大社に列している。祭神は「大御食津彦大神（おおみけつひこのおおかみ）」と「大御食津姫大神（おおみけつひめのおおかみ）」であるが、奈良時代天平宝字の頃（757～765）藤原氏により再建され、藤原氏の祖神である「天児屋根命（あめのこやねのみこと）」を常陸国（現在の香取神宮）より分霊し祀っていたが、宝亀年中（770～780）に、これを枚岡を経て奈良春日大社に移し、その後、大御食津二座を祀るという。この故事から「元春日」と呼ばれている。この縁があってか、明治維新前までは、奈良・春日大社の猿楽を受け持ち、この猿楽座に対して、春日大社より米7石5斗と金若干が奉納されていたとの事である。近鉄大阪線「恩智駅」より東へ約300メートル、旧国道170号（東高野街道）を渡ったところに大きな鳥居が建っているが、本殿までは800メートル程あり参道が続いているが、最後は急な石段が131段、拝殿まで続いている。この急な石段は、8月1日の夏祭りに布団太鼓が勇ましく駆け登ることで有名で、PL教団の花火大会と同じ日時であるが、多くの参拝（見学）者で埋め尽くされる。現在の本殿は明治年間に建替えられたものであり、建築様式は王子造（流造の一種）。拝殿は平成12年（2000）に建替えられ、まだ木の香りがするようである。本殿の少し北側の境内にある閼伽井戸（清明水）は、弘仁年間（810年頃）空海（弘法大師）が当社に参拝した折、峡谷の岩底に錫杖を突き立てたときに霊水が湧き出し、天候を予知する清水として知られ、雨の降る前になると赤茶色の濁水が流れ出ると言われている。　（新田俊明）

神社拝殿

境内からの夕景

石段

鳥居

所在地：八尾市恩智中町 5-10
最寄駅：近鉄大阪線「恩智」駅東へ約 1,100m で、徒歩約 20 分
見学：境内は自由
TEL：072-943-7059